

阪南市埋蔵文化財報告 XXV

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIV

1999年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は大阪府の南部に位置し、近年の不況下にもかかわらず、大規模な住宅地の開発事業が行われ、大阪市のベッドタウンとして人口増が続いています。こうした人口増に伴い主要幹線である国道26号線の交通渋滞も頻繁に発生する事態が生じてきました。この交通渋滞を解消するため、国道26号線の延伸工事が行われています。この工事に先立って昨年3月に当市向出遺跡において行われた大規模な発掘調査で、西日本最大級の縄文時代の土坑墓群が発見され、新聞紙上を賑わせました。現在、その保存活用について議論されています。

さて、本書は当教育委員会が国庫補助事業として、個人住宅建築工事等に伴って実施した発掘調査の報告書です。例年と同様、今年度も最低限の小規模な調査ばかりで、先述の向出遺跡のような「派手さ」はありませんでしたが、それぞれの遺跡の性格の一端を知ることのできる調査もありました。こうした地道な調査を今後も続けていくことが、直接地域に密着している私たちの責務であると考えています。

最後に、調査に協力してくださいました関係者に感謝いたしますとともに、今後とも本市の文化財保護にご尽力を賜りますよう、お願ひいたします。

1999年3月

阪南市教育委員会

教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成10年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野仁を担当として実施した。
3. 本書内に示した標高はT.P.であり、方位は既製の地形図等を使用したものを見て磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆、編集は、上記の調査担当者及び松本武志が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

(調査従事者)

宇沢克之、辻野 勝、伊庭 勉、太田敏治、岡本利市、和田旬世、井上祥子、井上 進、福森由記、外池美渡里、滝本奈保子、池田佳世子、進藤智美

目　　次

第1章 歴史的環境		1
第2章 調査の成果		
第1節 下出遺跡	(1) 97-1区	4
第2節 馬川遺跡	(1) 98-4区	5
第3節 内畠遺跡	(1) 98-1区	6
第4節 黒田遺跡	(1) 98-2区	7
第5節 向出遺跡	(1) 98-1区	9
	(2) 98-2区	10
	(3) 98-3区	10
第6節 神光寺(蓮池)遺跡	(1) 98-1区	10
第7節 鳥取北遺跡	(1) 98-1区	11
第8節 鳥取南遺跡	(1) 97-2区	12
	(2) 97-3区	12
	(3) 98-1区	12
第9節 道弘寺遺跡	(1) 98-1区	14
第10節 田山東遺跡	(1) 97-1区	14
	(2) 98-1区	17
第11節 箱作・淡輪地区内埋蔵文化財確認調査		18

第1章 歴史的環境（第1・2図）

阪南市は大阪府南部に位置する。大阪湾に面し、和泉山脈より派生した丘陵部、段丘面が伸びており、その間を縫うように河川が流れている。男里川、花折川、釈迦坊川、茶屋川によって形成された平野部が拡がっている。阪南市内では旧石器時代の遺構、遺物は確認されていないが、縄文時代から近世までの遺跡を確認している。以下、歴史的環境における変遷を時代別に述べたい。

阪南市内において人々の活動が確認されるのは、縄文時代草創期からである。神光寺（蓮池）遺跡より採取された柳又型の有舌尖頭器や自然田遺跡から出土したナイフ型石器は草創期の所産であるが遺構に伴うものではなく、当該期の性格は明らかになっていない。また、早期～中期の遺構も見つかっておらず、遺物も確認されていない。近年、(財)大阪府文化財調査研究センターによって向出遺跡の調査が行われ、縄文時代後期～晩期の墓地の中心部と考えられる200基以上に及ぶ土坑墓群が検出されている。さらに、男里川を下った左岸に位置する馬川北遺跡からも後期～晩期の土器が見つかっており、男里川支流域の縄文後晩期の集落の拡がりが判明している。この他、縄文時代の所産と思われる石器が市内各地に散布しており、狩猟活動領域が広い範囲に渡って及んでいたことが窺える。

弥生時代では、前期に活動の空白期間があるが、男里川周辺に活動領域が置かれていたようである。中期にはいって、方形周溝墓が神光寺（蓮池）遺跡において築造されている。現在の調査では1基しか確認されていないが、複数の方形周溝墓の存在が考えられ、墓域の範囲は周辺に拡がると推察される。また、方形周溝墓築造にかかわった集落が周辺に存在すると考えられる。後期になると、先述した(財)大阪府文化財調査研究センターの向出遺跡発掘調査によって竪穴住居約10棟が検出されている。この他、神光寺（蓮池）遺跡から石包丁が出土しており、耕作地が周辺に拡がっていたことが窺える。また、当該期から海岸部において塩の生産が開始される。その痕跡が尾崎海岸遺跡において確認されており、古墳時代初頭まで生産されていたことは確実である。以上のことから、多少の空白期間はあるが、縄文時代から弥生時代までは男里川水系周辺において連続と生活を営んでいた様子が窺える。

古墳時代にはいると、中期より古墳が造られるはじめる。市内西部を流れる茶屋川流域に帆立貝式前方後円墳の箱作古墳が築造され、男里川左岸周辺に文献史料で確認されている皿田池古墳が築造される。後期にはいると古墳がさかんに築造され、花折川流域に2基の小円墳からなる塚谷古墳群が形成され、男里川支流周辺においても玉田山古墳群、高田山古墳が形成される。現在、玉田山古墳群の内1号墳のみ保存されている。また、玉田山古墳群に近接して玉田山須恵器窯が6世紀に築造されており、周辺において須恵器生産に関与した工人集団の集落の存在が考えられる。この他、集落跡は貝掛遺跡において塚谷古墳群との関連が示唆される建物跡が検出されているのみで、不明な点が多い。

奈良時代になると海浜部に掘立柱建物を伴う集落が拡がりはじめる。波有手遺跡からまとめて墨書き土器が出土しており、貝掛遺跡からは奈良三彩八曲長杯が出土している。田山遺跡

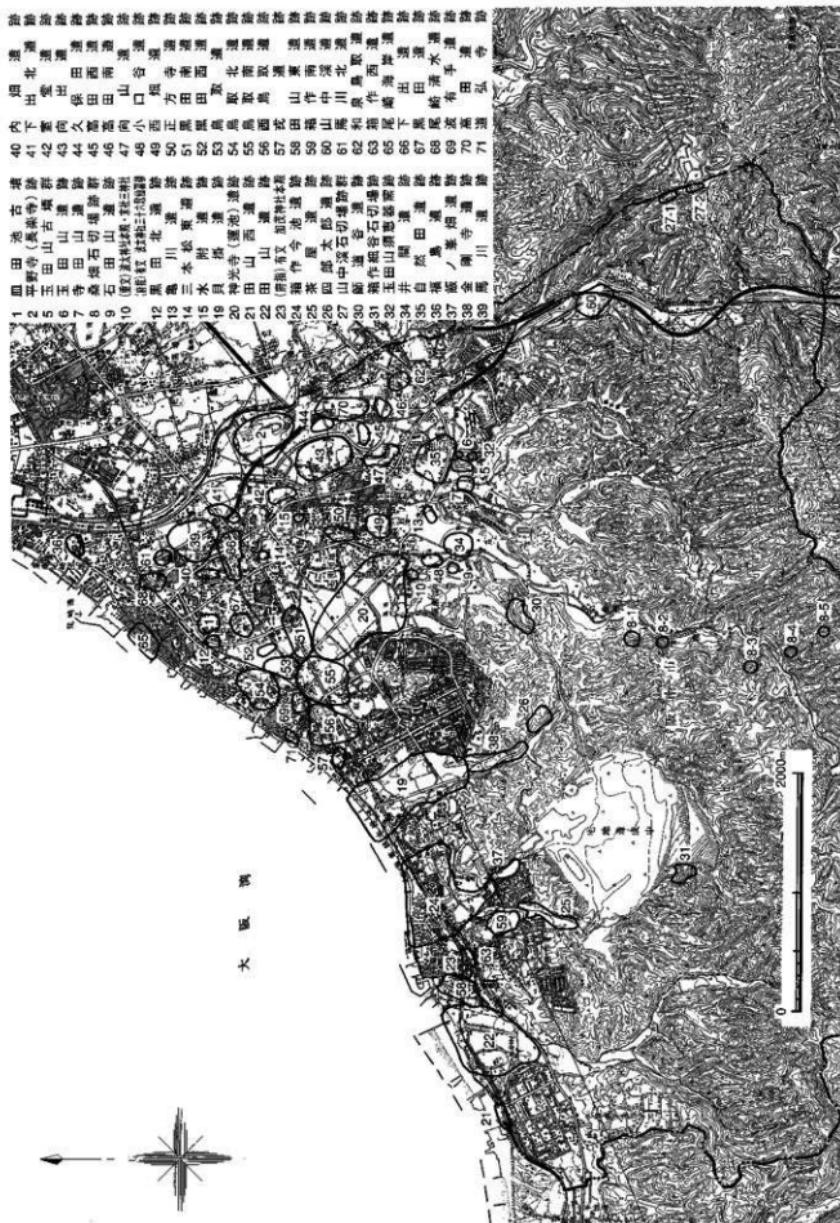
からは円面鏡や墨書き土器が出土し、箱作今池遺跡からは大型建物群が検出されている。以上の調査成果から、これらの地域では官衙的なものが造営されていたと考えられる。また、箱作今池遺跡、波有手遺跡、田山遺跡や貝掛遺跡では製塩土器が出土しており、周辺における塩生産地の存在が窺える。

平安時代前期～中期には集落の状況は不明瞭となり、後期にも明確なものが少なく、田山遺跡で確認されている程度である。またこの時期では、平野寺（長楽寺）跡、金剛寺遺跡、馬川遺跡、下山遺跡、田山遺跡、神光寺（蓮池）遺跡から瓦が出土していることから、これらの地域において、寺院もしくは住居以外の建物が建立されていたと考えられている。

中世になると、農耕に関連した遺構が多く検出されており、耕地開発が急速に行われ、それに伴った集落が展開されていたことが窺える。また、田山遺跡、田山東遺跡、箱作今池遺跡や馬川遺跡では、蜻蛉や土鉢を生産していたとみられる焼成土坑が見つかっている。このことから、海岸部では、漁撈具を生産していた漁村の存在も窺える。

近世には、海浜部において街道沿いに宿泊施設や商業的施設が発展していき、集落が展開されていく。特に、貝掛遺跡、金剛寺遺跡では近世集落遺構が確認されている。また、この地方特有の生産遺跡として箱作細谷石切場や箱作ミノバ石切場があげられ、これらの石切場から切り出された和泉砂岩製の石製品が各地に流通していく。

以上、市内における歴史的環境を大まかに述べた。近年、広範囲にわたる開発によって、元來みられた市内の景観が急激に失われている。開発をきっかけとして貴重な文化財の存在を確認することができるが、文化財保護の立場から慎重に行政発掘調査を進めていきたい。



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第2章 調査の成果

第1節 下出遺跡

(1) 97-1区

1. 調査の概要（第3～5図）

調査地は、下出遺跡の西端に位置し、北を信長街道に接する。盛土以下の基本的な層序は、第2層灰黒色小礫混粘質土、第3層黄色粘土（地山）である。第1層から瓦、陶磁器等、第2層から土師質土器、瓦、陶磁器等が出土した。

2. 遺構（第5図）

—落ち込み—

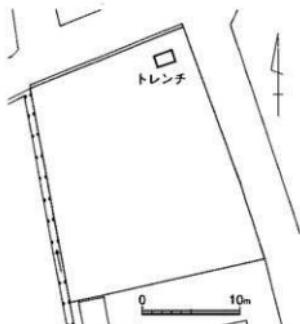
遺構は落ち込みの一部を検出した。埋土は茶黄色粘土、濃灰色粘土で、土師質土器、瓦、焼土塊等が出土した。

3. 遺物（第6図）

1は土師質土器の甕、2は瓦質土器の香炉である。いずれも中世期のもの。落ち込みから出土した。3は中世期の土師質土器の蛸壺で、体部に「十」のヘラ記号を持つ。4は近世期の土師質土器の甕である。その他に小片で図示できなかったが、備前焼の大甕底部も出土している。以上は第2層から出土した。

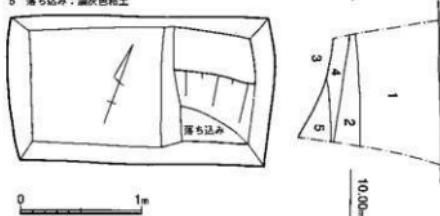


第3図 下出遺跡・馬川遺跡・内畠遺跡 調査区位置図

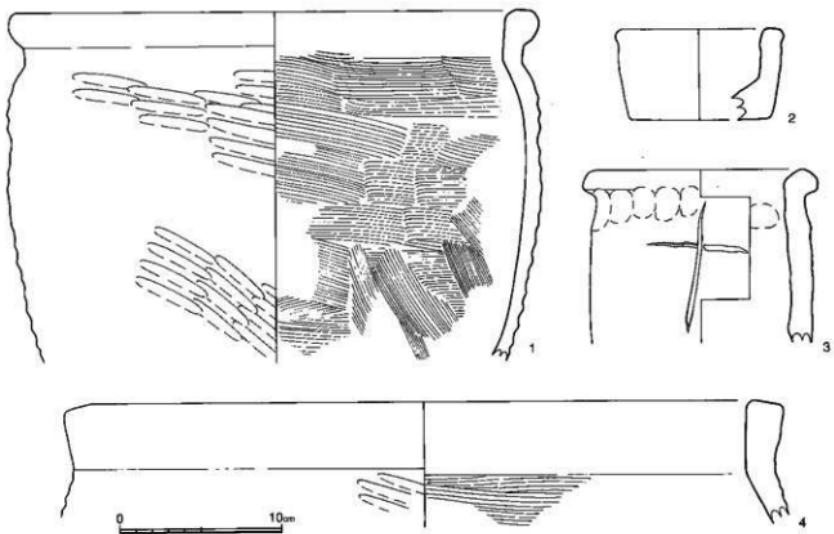


第4図 下出遺跡97-1区 トレンチ位置図

- 1 盛土
- 2 灰黒色小礫混粘質土（炭多量に含む）
- 3 地山：黄色粘土（マンガン粒混じり）
- 4 落ち込み：茶黄色粘土
- 5 落ち込み：濃灰色粘土



第5図 下出遺跡97-1区 トレンチ平面図・東側断面図



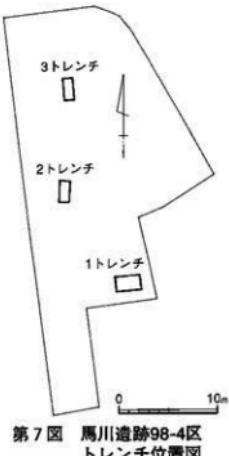
第6図 下出遺跡97-1区 出土遺物

第2節 馬川遺跡

(1) 98-4区

1. 調査の概要 (第3・7・8図)

調査区は、馬川遺跡のはば中央部、段丘の縁辺部に位置する。周辺の調査区からは、古代末期～中世期の瓦が多数出土しており、古代寺院の存在が想定されている。調査区内に南北から $1.8m \times 2.5m$ 、 $1m \times 2.2m$ 、 $1m \times 2.2m$ の3ヶ所のトレーニチを設定し、それぞれ1トレーニチ、2トレーニチ、3トレーニチとして調査を実施した。1トレーニチの盛土以下の基本層序は、第2層茶色土、第3層暗茶色土、第4層黒茶色土、第5層淡茶黄色土（地山）であった。2トレーニチでは、盛土直下に一部茶色土が認められたが、大部分は淡黄茶色礫混土の地山であった。3トレーニチは現地表面から1mまで掘削を行ったが旧地表面を確認できなかった。この3トレーニチは、先述した段丘の下にあたると考えられる。遺構は、1トレーニチ第5層上面で土坑を検出した。遺物は同じく1トレーニチから陶磁器、瓦等が出土した。



第7図 馬川遺跡98-4区
トレーニチ位置図

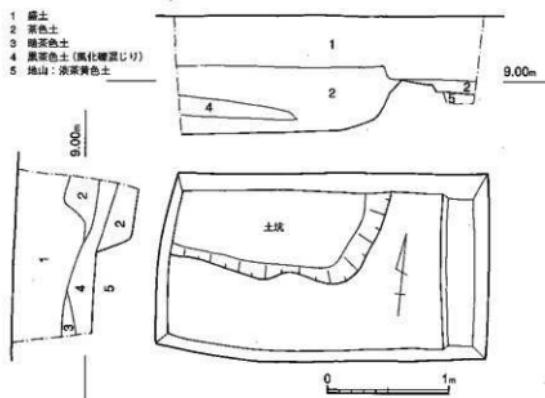
2. 遺構（第8図）

—土坑—

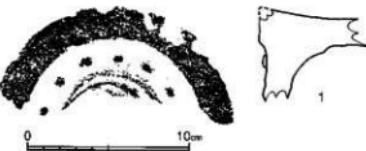
前述のように、1トレンチの北西角で検出した。南北70cm以上、東西1.8m以上、深さ30cmを測る。埋土は第2層茶色土と第4層黒茶色土であった。埋土中から瓦、土師質土器、陶磁器が出土した。

3. 遺物（第9図）

1は調査区内から出土した巴文軒丸瓦である。近世期のものと思われるが、焼成は極めて悪い。



第8図 馬川遺跡98-4区 1トレンチ平面図・断面図



第3節 内畠遺跡

第9図 馬川遺跡98-4区 出土遺物

(1) 98-1区

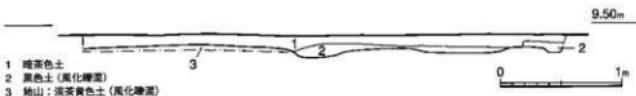
1. 調査の概要（第3・10・11図）

内畠遺跡では主に江戸時代の遺構、遺物が検出されている。調査地の南東部で行われた調査では、江戸時代を中心とする遺物の他、奈良時代の遺物も出土している。

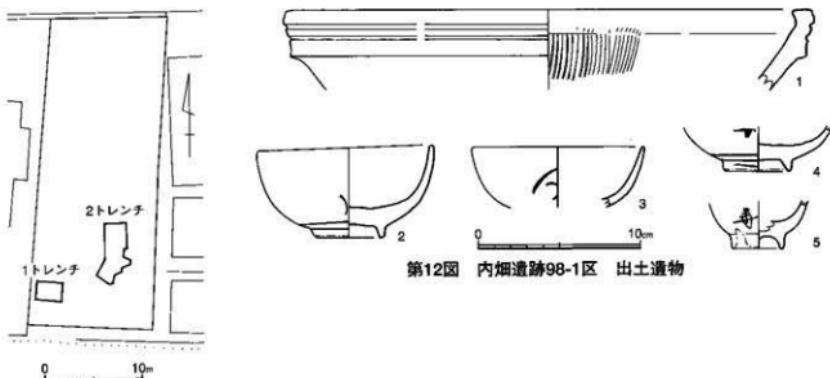
調査区は旧下出村の北端に位置し、2カ所のトレンチを設定して調査を実施した。1トレンチでは盛土、耕作土以下の基本的な層序は、茶黒色土、茶褐色礫混土（地山）で、遺構、遺物は検出されなかった。2トレンチは第1層暗茶色土、第2層黒色土、第3層淡茶黄色土（地山）であった。遺構は検出されなかつたが、第1層より須恵器、土師質土器、陶磁器が出土した。

2. 遺物（第12図）

1は堀櫛鉢で、2トレンチの第1層より出土した。2～5は磁器の染付碗で、いずれも18世紀頃のもので、表面採取された。



第10図 内烟遺跡98-1区 2トレンチ平面図・断面図



第12図 内烟遺跡98-1区 出土遺物

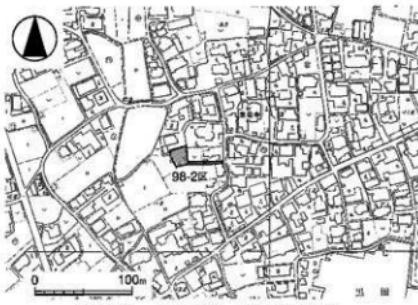
第11図 内烟遺跡98-1区
トレンチ位置図

第4節 黒田遺跡

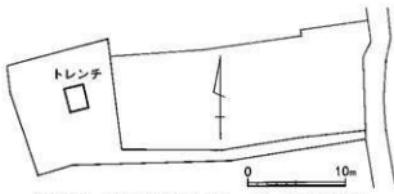
(1) 98-2区

1. 調査の概要（第13～15図）

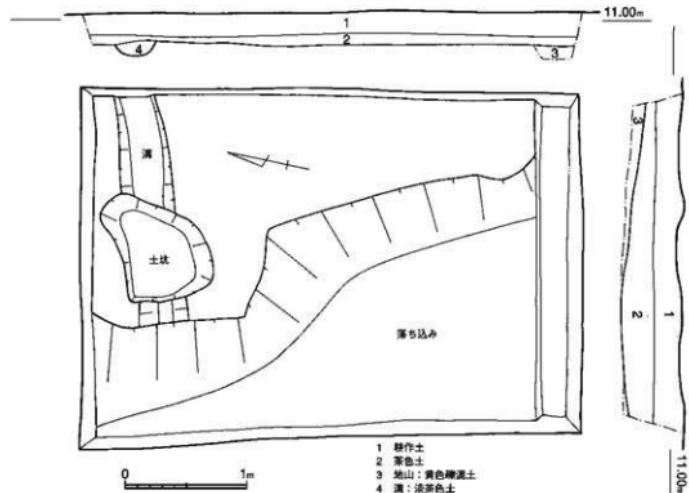
調査区は黒田遺跡の東端部に位置する。本遺跡での過去の調査例は少ないが、本区の東側で奈良時代の土師器を含む溝を検出している。性格の詳細については把握されていない。調査区内に3m×4mのトレンチを設定して調査を実施した。耕作土以下の基本層序は、第2層茶色土、第3層黄色礫混土（地山）の順であった。遺構は落ち込み、土坑、溝を検出した。遺物は、瓦、土師質靖壺、陶磁器等が出土した。



第13図 黒田遺跡 調査区位置図



第14図 黒田遺跡98-2区 トレンチ位置図



第15図 黒田遺跡98-2区 トレンチ平面図・断面図

2. 遺構（第15図）

—土坑—

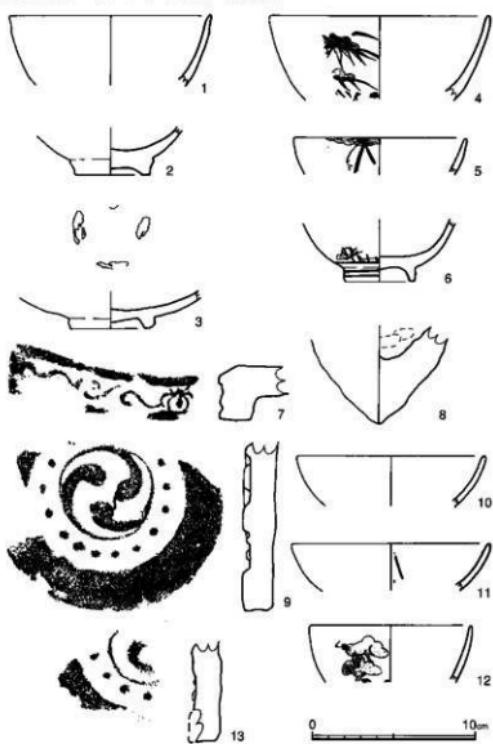
径約70cm、深さ15cmを測る。埋土は第2層茶色土であった。埋土中から土師質靖壺、瓦、陶磁器等が出土した。近世期以降のものと思われる。

—落ち込み—

トレンチ中央から西側方向への落ち込み。埋土は第2層茶色土であった。埋土中から瓦、陶磁器等が出土した。土坑と同じく近世期以降のものと思われる。

—溝—

トレンチの北部で検出した。ほぼ東西方向に流れる。検出面での幅約40cm、深さ10cmを測る。埋土は淡茶色土であった。土坑と落ち込みよりも古い時代のものである。埋土中から土師質土器が出土したが、細片のため、器種、時代等不明であった。



第16図 黒田遺跡98-2区 出土遺物

3. 遺物（第16図）

1・2は肥前系施釉陶器の塊。3も同じく青緑釉皿。内面には砂目が残る。4～6は磁器の染付碗。1～6はいずれも18世紀もしくはそれ以降のもの。7は均整唐草文軒半瓦。焼成が極めて悪く、赤褐色を呈し、かなり摩耗している。室町時代のものと思われる。1は落ち込みから、2～7は土坑から出土した。8は土師質蜻蛉の底部。中世期のものと思われる。9は巴文軒丸瓦である。近世期以降のもの。10・11は肥前系施釉陶器の塊。11は京焼風と呼ばれるもの。12は磁器の染付碗。10～12は18世紀頃のもの。13は巴文軒丸瓦である。近世期以降のもの。8・9は第2層から、10～13は調査区から出土した。

第5節 向出遺跡

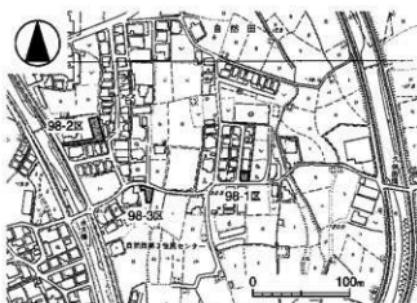
（1）98-1区

1. 調査の概要（第17・18図）

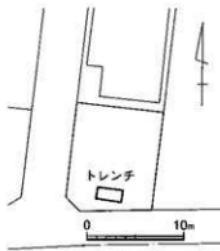
本遺跡は兎砥川と山中川に囲まれた段丘上に位置する。1998年に国道延伸工事に伴って実施された調査において、縄文時代後期の土坑墓を約200基、弥生時代後期の堅穴住居10棟、多数の縄文土器、弥生土器が出土した。

今回の調査区は、上述の土坑墓群が確認された同じ段丘上に位置し、それらと同様の遺構や遺物の存在が推測されていた。

調査は、1.3m×3mのトレンチを設定し行った。基本層序は、盛土直下が第2層淡茶灰色礫混土であった。遺構、遺物共に検出されなかった。調査区より西へ約50mの同じ段丘上で行った調査では、包含層の存在が確認されているため、本調査区は以前の開発工事により、少なくとも包含層のすべて、地山面の一部が削平を受けていたものと思われる。



第17図 向出遺跡 調査区位置図

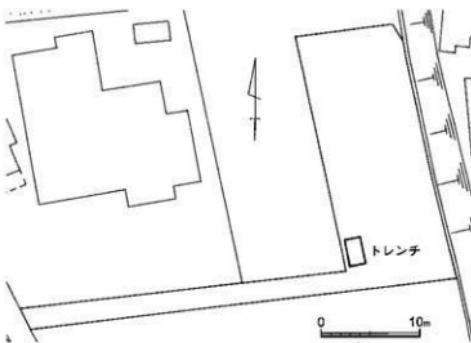


第18図 向出遺跡98-1区
トレンチ位置図

(2) 98-2区

1. 調査の概要 (第17・19図)

調査区は、向出遺跡の西端部、縄文時代後期～晩期における数百の土坑墓が確認された菟谷川と山中川が形成した段丘の下に位置する。調査区内に $1.5m \times 3m$ のトレンチを設定して調査を実施した。近年の盛土層を現地表面から1m以上掘削を行ったが旧地表面まで達しなかった。



第19図 向出遺跡98-2区 トレンチ位置図

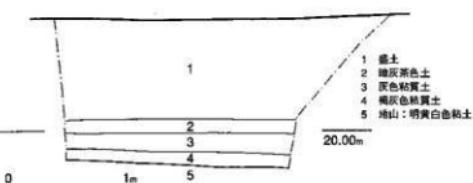
(3) 98-3区

1. 調査の概要 (第17・20・21図)

調査地は98-2区と同じく段丘の下に位置する。調査は調査区内に4ヶ所のトレンチを設定して実施した。1トレンチの盛土以下での基本的な層序は、第2層暗灰茶色土、第3層灰色粘質土、第4層褐色粘質土、第5層明黄白色粘土（地山）であった。遺構、遺物は検出しなかった。



第20図 向出遺跡98-3区 トレンチ位置図



第21図 向出遺跡98-3区 1トレンチ 北側断面図

第6節 神光寺（蓮池）遺跡

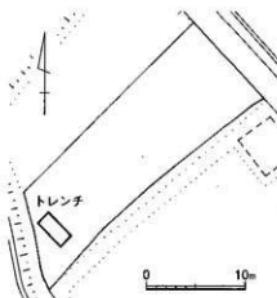
(1) 98-1区

1. 調査の概要 (第22～24図)

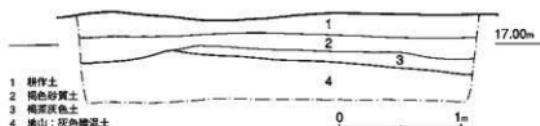
調査区は神光寺（蓮池）遺跡の北西端部、佐智川の段丘上に位置する。調査は $1.7m \times 3.4m$ のトレンチを設定して行った。基本層序は、第1層耕作土、第2層褐色砂質土、第3層褐茶灰色土、第4層灰色礫混土（地山）であった。遺構は検出されず、遺物は第1層から土師質土器や陶器が出土したのみであった。遺物は小片のため図示していない。



第22図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図



第23図 神光寺(蓮池)遺跡98-1区
トレンチ位置図



第24図 神光寺(蓮池)遺跡98-1区 トレンチ東側断面図

第7節 鳥取北遺跡

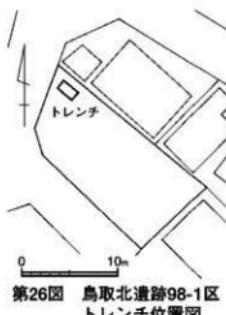
(1) 98-1区

1. 調査の概要 (第25~27図)

鳥取北遺跡では、これまで大規模な調査が実施されたことがなく、近年の小規模な調査で、近世期の遺構や遺物を検出している程度のため、遺跡の性格を明らかにするにはいたっていな
い。

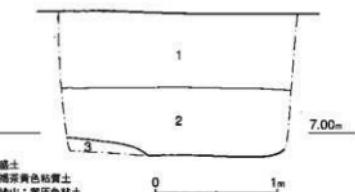


第25図 鳥取北遺跡 調査区位置図



第26図 鳥取北遺跡98-1区
トレンチ位置図

調査区は鳥取北遺跡の西部に位置する。調査は1m×2mのトレンチを設定し行った。盛土以下の基本層序は、第2層褐茶黄色粘質土、第3層黄灰色粘土（地山）であった。遺構は検出されず、遺物は第2層から須恵器、蜻壺をはじめとする土師質土器、瓦質土器が出土したが、小片のため図化しえなかつた。



第27図 鳥取北遺跡98-1区 トレンチ東側断面図

第8節 鳥取南遺跡

(1) 97-2区

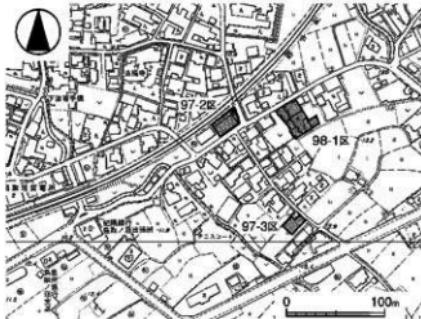
1. 調査の概要 (第28~30図)

調査区は鳥取南遺跡の北端部に位置する。後述のように、本遺跡におけるこれまでの調査では、弥生時代の遺構が確認されている。調査区内に2ヵ所のトレンチを設定して調査を実施した。盛土、耕作土以下的基本層序は、第3層乳灰色疊混砂、第4層茶黒色粘土、第5層暗茶黄色粘土（地山）の順であった。遺構は検出されなかつた。遺物は第3層から土師質蜻壺、第4層から須恵器が出土した。遺物についてはいずれも小片のため図化しえなかつた。

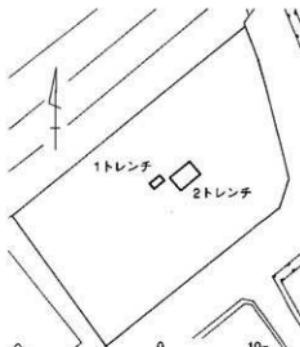
(2) 97-3区

1. 調査の概要 (第28・31・32図)

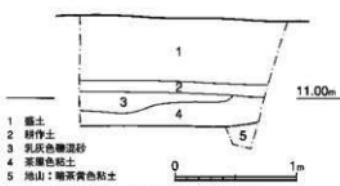
調査区は、鳥取南遺跡の東端部、佐智川の右岸段丘上に位置する。同川の左岸では、弥生時代～中世期の遺構が検出されている。耕作土以下の基本層序は、第2層淡茶色砂質土、第3層灰褐色土、第4層淡灰色砂質土、第5層暗茶色土、第6層暗灰色疊混土（地山）であった。遺構は検出されなかつた。遺物は第3層から須恵器、土師質土器、陶器が出土した。遺物についてはいずれも小片のため図化しえなかつた。



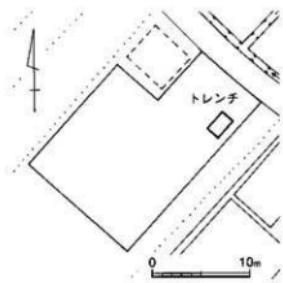
第28図 鳥取南遺跡 調査区位置図



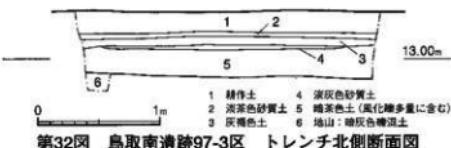
第29図 鳥取南遺跡97-2区 トレンチ位置図



第30図 鳥取南遺跡97-2区 1トレンチ北側断面図



第31図 鳥取南遺跡97-3区
トレンチ位置図



第32図 鳥取南遺跡97-3区 トレンチ北側断面図

(3) 98-1区

1. 調査の概要 (第28・33・34図)

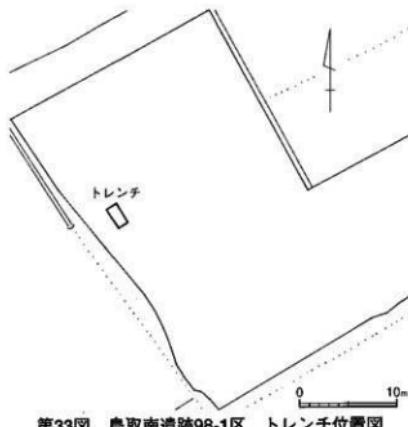
調査区は鳥取南遺跡の北部に位置する。鳥取南遺跡は、1988年の分布調査によって発見周知され、本調査区周辺での往年の調査では、中世期の造構や遺物が確認されている。

盛土以下の大層序は、第2層淡灰色土、第3層茶灰色土、第4層暗黄灰色土、第5層明黃茶灰色土（地山）であった。造構は、第4層上面で井戸を検出し、遺物は第2層から土師質土器、陶器、第3層から須恵器、土師質土器、中世期の瓦が出土した。

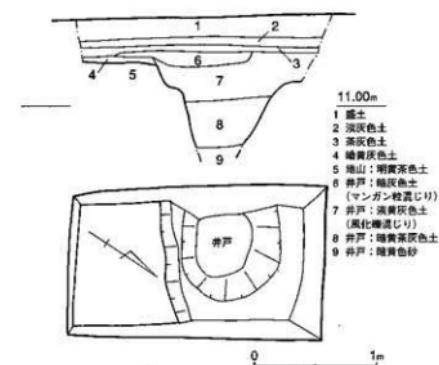
2. 造構 (第34図)

—井戸—

径は1.2m以上、深さ80cm以上を呈する。井戸の埋土は暗灰色土、淡黄灰色土、暗黄茶灰色土、暗黄色砂であった。埋土の暗灰色土から奈良時代と思われる須恵器の壊身の底部、土師質土器、淡黄灰色土から土師質土器が出土した。井戸の時期については、出土遺物から中世期以前のものと思われる。



第33図 鳥取南遺跡98-1区
トレンチ位置図



第34図 鳥取南遺跡98-1区
トレンチ平面図・西側断面図

第9節 道弘寺遺跡

(1) 98-1区

1. 調査の概要 (第35~37図)

調査区は、道弘寺遺跡の中央部に位置する。同遺跡は、1997年度の民間開発に伴って発見周知された。この時の調査では、瓦窯跡(平窯)が検出された。この窯は大きさ全長約3.7m、最大幅約2.3mで、窯の形態や出土遺物から奈良時代と思われる。

以前より文献史料や字名等から、この周辺において道弘寺の存在は推定されていたため、同寺の瓦を焼いた瓦窯と思われる。今回の調査では、寺院や瓦窯に結び付く遺構や遺物は確認できなかった。

調査は、1.0m×1.7mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層灰茶色土、第4層暗灰黄色砂混土(地山)であった。

遺構は土坑と思われるものの一部を検出し、遺物は第3層から蜻蛉をはじめとする土師質土器が出土したが、いずれも小片のため図化しえなかつた。なお、遺物から第3層は中世の層と思われる。

2. 遺構 (第37図)

—土坑—

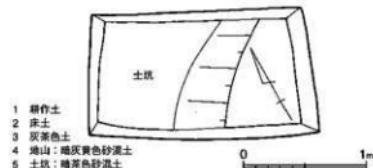
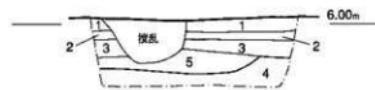
幅東西に1.2m以上、深さ20cmを呈する。埋土は暗茶色砂混土。土坑の時期については、遺物は含まれていなかつたが、上述のように第3層が中世期の層と思われるため、中世期以前のものと思われる。



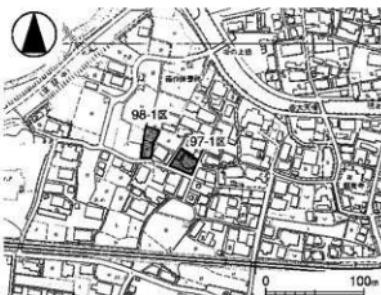
第35図 道弘寺遺跡 調査区位置図



第36図 道弘寺遺跡98-1区
トレンチ位置図



第37図 道弘寺遺跡98-1区
トレンチ平面図・北側断面図



第38図 田山東遺跡 調査区位置図

第10節 田山東遺跡

(1) 97-1区

1. 調査の概要 (第38~40図)

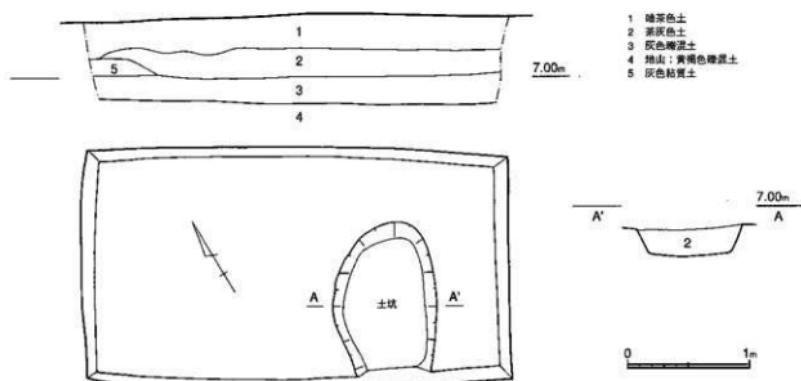
調査地は、田山東遺跡の北西端部、現在の海岸線まで100m程度の地点に位置する。

本遺跡における既往の調査では、この調査地の東隣で蜻蛉の焼成遺構が確認されている。

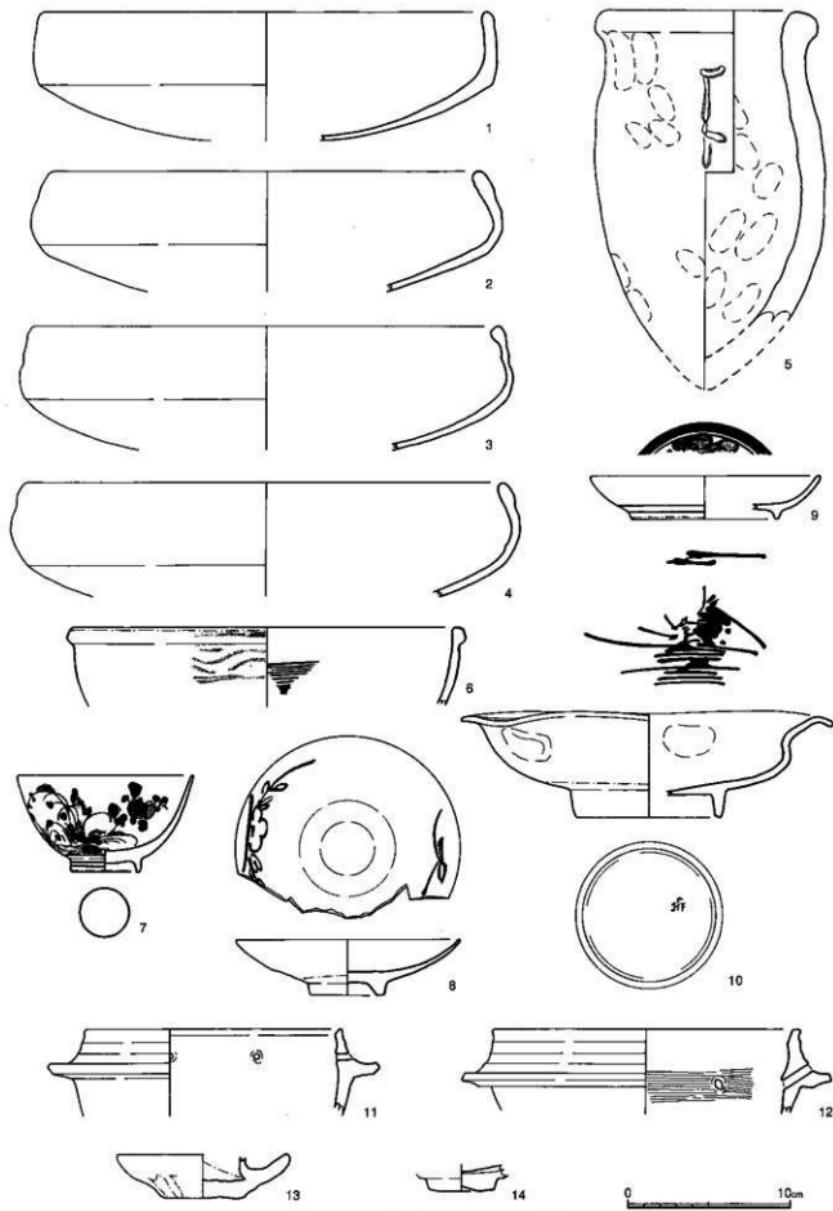
調査区内に1.8m×3.5mのトレンチを設定して調査を実施した。基本的な層序は、第1層暗茶色土、第2層茶灰色土、第3層灰色礫混土、第4層黄褐色礫混土（地山）の順であった。遺構は土坑を確認した。遺物は土坑から出土した土師質蜻蛉の他、第2層から陶磁器や瓦等が、第3層から土師質土器や瓦質土器等が出土した。



第39図 田山東遺跡97-1区・98-1区 トレンチ位置図



第40図 田山東遺跡97-1区 トレンチ平面図・北側断面図



第41図 田山東遺跡97-1区 出土遺物

2. 造構（第40図）

-土坑-

第4層上面で検出したが、埋土は茶灰色土であり、第3層上面から掘削されたものである。楕円形で、検出面での大きさは短径90cm、長径1.2m以上、深さ25cmを測る。埋土中から底部を一部欠損した土師質蜻壺をはじめ、磁器、焙烙、陶器の擂鉢、瓦等が出土している。土師質蜻壺は中世期のものであるが、後述の焙烙等も出土しており、この土坑の時期は近世期以降のものと思われる。

3. 遺物（第41図）

1～4は土師質の焙烙。5は上述した土師質蜻壺。6は刷毛目唐津の鉢。7は染付磁器碗。8・9は染付磁器皿。10は肥前系陶器の盤。高台内に刻印が見られる。以上の10点は土坑から出土した。11・12は第3層から出土した瓦質の羽釜。いずれも鉢の上部に孔があけられている。室町時代末頃のものと思われる。13は陶器の灯明皿。14はいわゆる瀬戸美濃焼の天目茶碗高台部。16世紀末頃のものか。13・14は第2層から出土した。5・11・12・14以外は近世期でもいずれも18世紀以降のものと思われる。

(2) 98-1区

1. 調査の概要（第38・39・42図）

調査地は、田山東遺跡の北西端部で、先述の97-1区の数十m西側に位置する。盛土、耕作土以下の基本的な層序は、第3層茶灰色土、第4層黄褐色粘土（地山）であった。造構は溝を検出した。遺物は、この溝から土師質蜻壺や瓦器が、第3層から土師質蜻壺、瓦器、土師質管状土錐等が出土している。

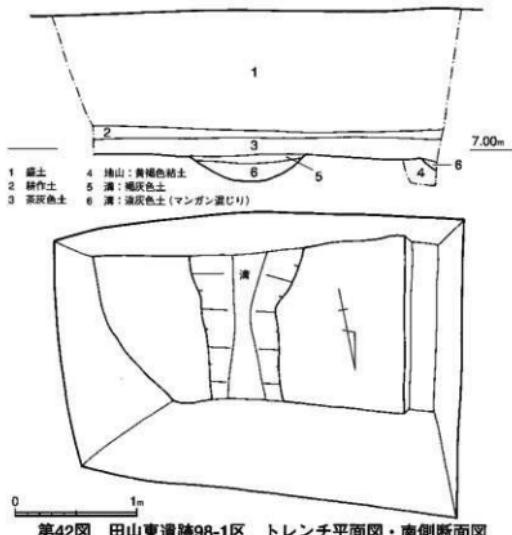
2. 造構（第42図）

-溝-

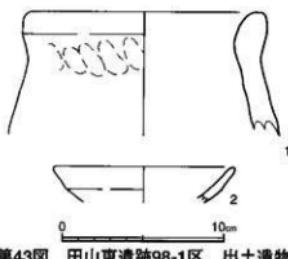
第4層上面で検出した。南北方向に流れる。幅約80cm、深さ20cmを測る。埋土中より土師質蜻壺、瓦器が出土した。出土した遺物から中世期以降のものと思われる。

3. 遺物（第43図）

1は土師質蜻壺で、2は瓦器小皿。1・2ともに溝から出土した。すべて中世期のもの。



第42図 田山東遺跡98-1区 トレンチ平面図・南側断面図



第43図 田山東遺跡98-1区 出土遺物

第11節 箱作・淡輪地区内埋蔵文化財確認調査（第44回）

調査地は阪南市の西端に位置し、南部および西部は泉南郡岬町に接する。周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しないが、文献史料等によると江戸時代に新田開発された明治22年の町村制施行までは、山中新田村と呼ばれていた。

調査は開発地全域に11カ所のトレントを設定し行った。以下に各トレントの概要を報告する。

－1 トレント－

盛土の直下が地山である。遺構や遺物は検出されなかった。

－2 トレント－

耕作面を作り出す為の地形改変は認められたが、その他、遺構や遺物は検出されなかった。

－3 トレント－

耕作面を作り出す為の地形改変は認められたが、遺構は検出されず、整地土層より近世瓦が出土した。

－4 トレント－

耕作面を作り出す為の地形の改変が認められ、それ以前の溝を確認したが大幅に削平されている。遺物が出土しなかったため時期等は不明だが、近世期以降のものと推定される。

－5 トレント－

谷部にあたり、深さ幅1.8mのヘドロ層が見られ、整地後耕作地としている。

－6 トレント－

耕作面を作り出す為の地形の改変は認められたが、その他、遺構や遺物は検出されなかった。

－7 トレント－

耕作土以下はすぐ地山で、遺構や遺物は検出されなかった。

－8 トレント－

耕作面を作り出す為の地形の改変は認められたが、その他、遺構や遺物は検出されなかった。

－9 トレント－

耕作土以下はすぐに地山で、遺構や遺物は検出されなかった。

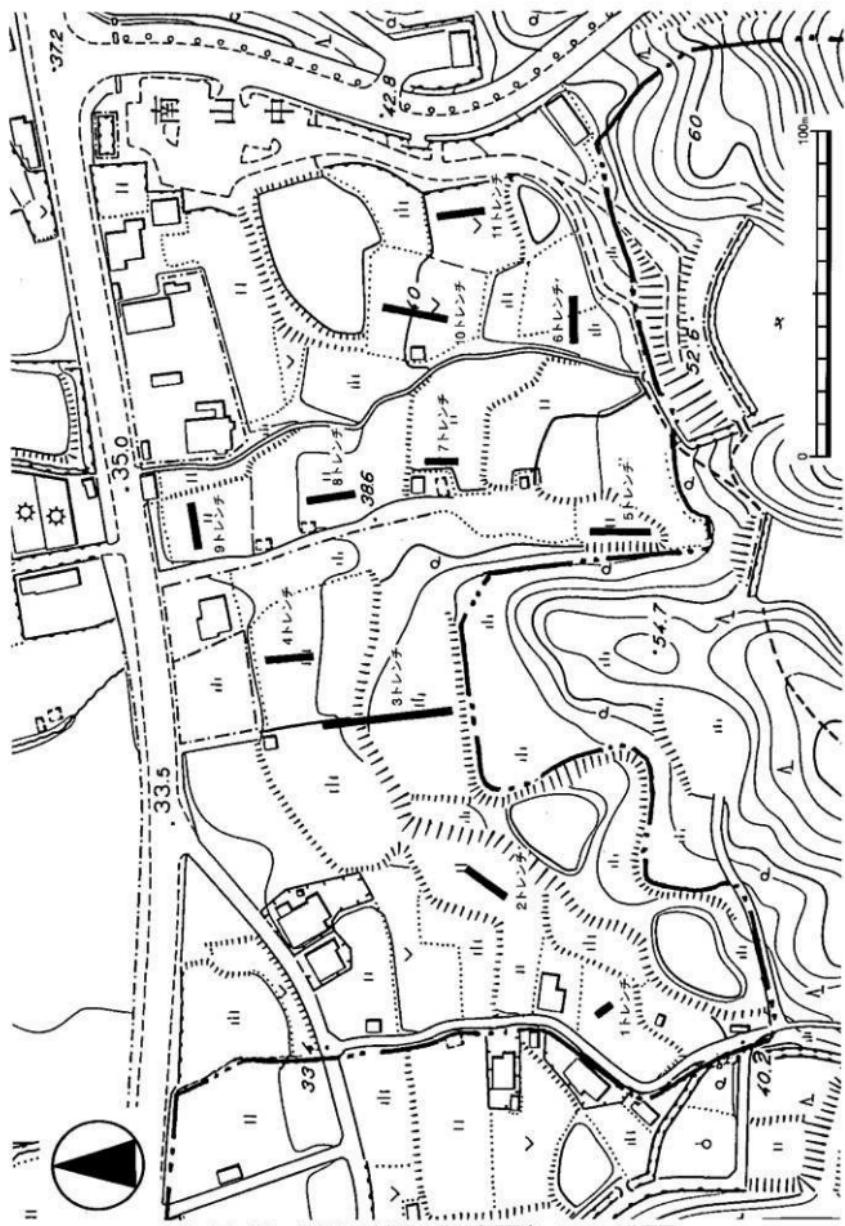
－10 トレント－

耕作土以下はすぐに地山で、遺構や遺物は検出されなかった。

－11 トレント－

耕作面を作り出す為の地形改変は認められたが、遺構や遺物は検出されなかった。

以上のように、本地域における今回の調査では顕著な遺構、遺跡は発見できなかった。



第44図 箱作・淡輪地区内埋蔵文化財確認調査 トレンチ位置図

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはつくつちょうきがいよう						
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 14						
副書名							
卷次							
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	25						
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁						
編集機関	阪南市教育委員会社会教育課						
所在地	599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678						
発行年月日	1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所材地	コ一ド	北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
しもいで 下出	はなんじしもいで 阪南市下出	27232	66	342114	1351450	980309	1 住宅
うまがわ 馬川	同 上	27232	39	342124	1351500	990120~30	8.9 住宅
うちはた 内 烟	同 上	27232	40	342124	1351450	981113~16	17.9 住宅
くろだ 黒田	阪南市黒田	27232	67	342112	1351436	990113~0228	12 住宅
むかいで 向出	阪南市自然田	27232	43	342049	1351531	980820	3.9 住宅
同 上	同 上	27232	43	342051	1351525	981021~22	4.5 住宅
同 上	同 上	27232	43	342048	1351527	990111	23 住宅
じんこうじはすいけ 神光寺蓮池	いしだ 阪南市石田	27232	20	342047	1351423	980519	5.78 住宅
とっとりきた 鳥取北	とっとり 阪南市鳥取	27232	54	342107	1351410	980526	2 住宅
とっとりみなみ 鳥取南	同 上	27232	55	342056	1351413	980213~0310	6.26 住宅
同 上	同 上	27232	55	342053	1351416	980306	2.86 住宅
同 上	同 上	27232	55	342057	1351415	980528	2.31 住宅
どうこうじ 道弘寺	同 上	27232	71	342058	1351358	980609	1.7 住宅
たやまひがし 田山東	はこつくり 阪南市箱作	27232	58	342016	1351235	980302~04	6.3 住宅
同 上	同 上	27232	58	342015	1351233	980810	6 住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下出	散布地	中世・近世	落ち込み	上師質・瓦・焼土・瓦質・壺壺・備前	
馬川	同上	近世	土坑	陶磁器・瓦・土師質土器	
内畠	同上	近世		須恵器・陶磁器・土師質土器	
黒田	同上	近世	土坑・落ち込み・溝	瓦・土師質壺壺・陶磁器	
向出	同上	不明			
同上	同上	不明			
同上	同上	不明			
神光寺蓮池	同上	不明		上師質土器・陶器	
鳥取北	同上	不明		須恵器・土師質土器・壺壺・瓦質土器	
鳥取南	同上	不明		土師質壺壺・須恵器	
同上	同上	不明		須恵器・土師質土器・陶器	
同上	同上	中世以前	井戸	土師質土器・陶器・須恵器・瓦	
道弘寺	同上	中世以前	土坑	土師質壺壺・土師質土器	
田山東	同上	近世	土坑	土師質壺壺・陶磁器・瓦・土師質土器・瓦質土器	
同上	同上	中世	溝	土師質・管状土錐	

阪南市街全域





下出遺跡97-1区 トレンチ全景（西より）



馬川遺跡98-4区 トレンチ全景（東より）



馬川遺跡98-4区 北側断面



馬川遺跡98-4区 西側断面



内畠遺跡98-1区 1トレンチ全景（東より）



黒田遺跡98-2区 トレンチ全景（南より）



向出遺跡98-1区 トレンチ全景（西より）



向出遺跡98-2区 トレンチ全景（南より）



向出遺跡98-3区 1トレンチ全景（西より）



神光寺（蓮池）遺跡98-1区 トレンチ全景（南より）



鳥取北遺跡98-1区 トレンチ全景（南より）



鳥取南遺跡97-2区 トレンチ全景（西より）



鳥取南通跡97-3区 トレンチ全景（東より）



鳥取南遺跡98-1区 トレンチ全景（南より）



鳥取南遺跡98-1区 西側断面



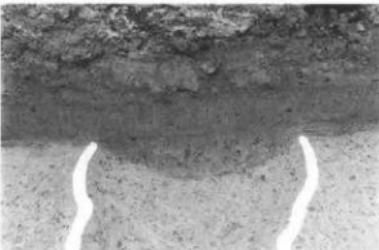
道弘寺遺跡98-1区 トレンチ全景（南より）



田山東遺跡97-1区 トレンチ全景（西より）



田山東遺跡97-1区 土坑1（東より）



田山東遺跡98-1区 溝（北より）



田山東遺跡98-1区 トレンチ全景（西より）



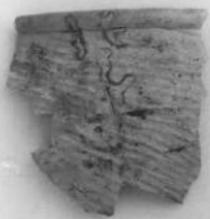
箱作・淡輪地区内埋蔵文化財確認調査
No.7トレーニング全景(南より)



箱作・淡輪地区内埋蔵文化財確認調査
No.11トレーニング全景(南より)



箱作・淡輪地区内埋蔵文化財確認調査
No.8トレーニング 東側断面



下出遺跡97-1区 出土遺物



下出遺跡97-1区 出土遺物



下出遺跡
97-1区
出土遺物



内窯遺跡98-1区 出土遺物



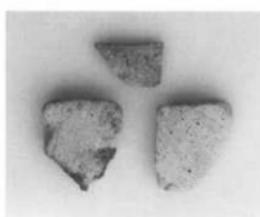
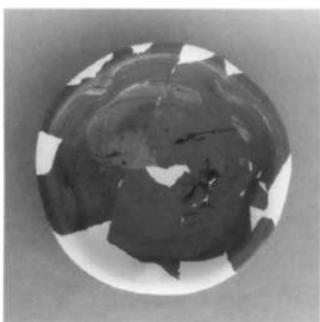
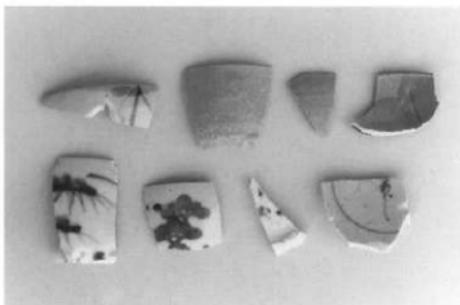
馬川遺跡98-4区 出土遺物



黒田遺跡98-2区 出土遺物

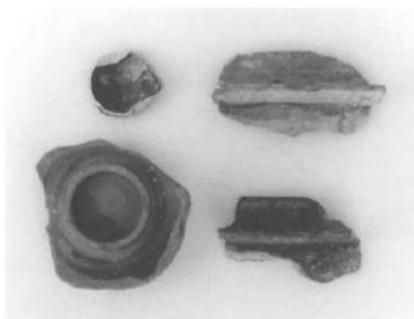


黒田遺跡98-2区 出土遺物

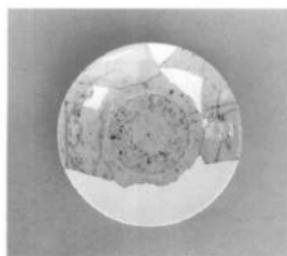




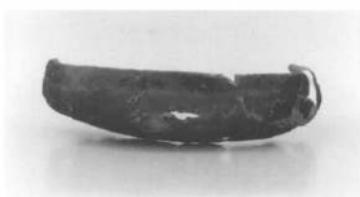
田山東遺跡97-1区 出土遺物



田山東遺跡97-1区 出土遺物



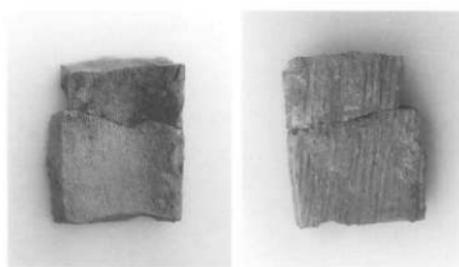
田山東遺跡97-1区 出土遺物



田山東遺跡97-1区 出土遺物



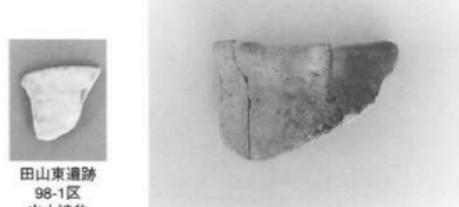
田山東遺跡97-1区 出土遺物



田山東遺跡97-1区 出土遺物



田山東遺跡97-1区 出土遺物



田山東遺跡
98-1区
出土遺物

田山東遺跡98-1区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告XXV

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXV

1999年3月

発行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54